

道

2022・7・6

通信 No 1690

《今日の練習 6時～8時半》 (清水先生) 小坂先生
・モルダウ ・ワクワク

(※清水先生は舞台練習のため欠席かもしれません)

《次回7月13日の練習 6時～8時半》 吉野町市民プラザホール
小坂先生 二宮先生

・わが想いわが詩・向こうの小川で(3部全ての楽譜をお持参ください)



ムラサキツククサ

《ロシアのウクライナ侵攻報道で感じたことなど》

ロシアがウクライナに侵攻して数か月になります。これは人が人を殺す戦争にほかなりません。戦中派の私が体験したことなどを思い出しながら書いてみたいと思います。

太平洋戦争が始まった昭和16(1941)年は私が中学3年の事でした。その前から世相は日に日に悪い方向に進み、殊にABCD(アメリカ、イギリス、中国、オランダ)ラインによる経済封鎖以降は日常生活も困難を極めるようになってきました。

中学では音楽や体操の授業がなくなり、代わりに教練の授業になりました。各学校に陸軍から若手で尉官クラスの配属将校が派遣され鍛えられました。何を習ったのかというと、先ず規律を守ること、命令は絶対でした。そして分列行進、銃剣術、実弾射撃等々。先行き招集され入隊した時、幹部候補生になるための訓練でもありました。しかしそれはいかに人を殺すかの訓練でもありました。

富士の裾野に廠舎(しょうしゃ)と演習場があります(今は自衛隊が使っています)そこへ毎年、遠足の代わりに行くようになりました。そこでは朝から晩まですごされました。ある時はそこから愛鷹山に銃を担いで登山し、帰りに折から降り出した雨の中、駆け足で廠舎に戻りましたが裾野は平坦ではなく起伏があり、凹地に水が貯まっているところを、靴が水浸しになりながらひたすら駆けました。

また、ある晩の漆喰の夜間練習で、黒い外套に白い手拭いで襷をかけ、前を歩く仲間を見失わないように夜襲行軍をしたことがあります。その時一人の仲間が咳をしたのです。配属将校が飛んできて「お前のために皆が死ぬのだ」と鉄拳制裁をされたことがありました。

今考えますと全く無茶苦茶ですが、戦争中はこんなことが当たり前に通じていたのです。今のロシアも報道管制したり、言論統制したり、さらなる動員計画を進めたりして、似たような状況があるのではないのでしょうか。

その後の私は終戦の年(昭和20年・1945)の春、18歳で繰り上げ徴兵検査を受け(戦病死で兵隊が不足し徴兵が20歳から18歳になった)、9月1日に招集ということでそれなりの覚悟をしてましたが、半月早く終戦になりましたので兵役は免れました。かくして、私の青春前半は無惨なものになったのです。

こうして書いておきますと、平和のありがたさを心から感ぜずにはおられません。そしてあんな軍国主義教育なんて真っ平で、もう誰にも受けさせたくありません。戦争は絶対にいけません。核を使うようなことをプーチンは口にしますが、広島、長崎の惨状を彼はどう考えているのでしょうか。恐ろしいことです。

増田やすし

運営委員会 8月3日(水) 2時30分～5時00分 県民サポートセンター